

総務消防常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年8月23日(金)
午前10時～午前11時18分
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 委員長 菊地 忍 副委員長 二階堂 充
委員 寺嶋 雅子 委員 大久保主計
委員 吉田 良 委員 郷内良治
委員 大泉 徳子
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため 企画部長 小平 英俊
出席をした などの魅力創生課長 垣内 徹
者の職氏名 などの魅力創生
課長補佐兼 堀籠 純子
国際交流・広報係長
などの魅力創生課 佐藤 文人
主幹兼魅力創生係長
- 6 事務局職員 事務局 長 綱川 宏一
主 査 石田 ゆい
- 7 付議事件
(1) 移住・定住の促進について
① 合同移住フェアについて
② スーパーキッズ育成事業について
③ 各種補助金について

午前10時 開 会

○委員長（菊地 忍） 出席委員は、定足数に達しておりますので、委員会条例第14条の規定により委員会は成立いたしました。

ただいまから、総務消防常任委員会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の委員会次第書のとおりであります。

この際、諸般の報告をいたします。

本日の会議に係る一切の資料を、お手元に配付しておりますので御了承願います。

これをもって諸般の報告を終わります。

それでは、付議事件の（1）移住・定住の促進についてを議題といたします。

初めに、本日の進め方について、説明いたします。

まず、執行部より本日の説明要請事項について、すべて御説明いただき、その後、委員各位より項目ごとに質疑をお受けする形で進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

休憩をして進めてまいります。暫時、休憩いたします。

午前10時1分 休 憩

*休憩中の要旨

○移住・定住の促進について

執行部より、各項目について説明をした。内容は以下のとおり。

（なとりの魅力創生課）

（1）移住・定住の促進について

①合同移住フェアについて

1 実施に至る経緯について

これまで本市においては2回の単独移住イベントを開催したが、令和5年3月開催時は5世帯、令和6年3月開催時は1世帯の来場であった。

一方で、ふるさと回帰支援センターや宮城県主催の複数の自治体が集まる移住イベントには多くの来場者があったことを踏まえると、単独移住イベントを開催しても首都圏における知名度の低さから、なかなか集客につながらないという課題があった。

また、移住希望者の中には、特定の自治体への移住を検討している方もいる一方で、利便性の高いエリアや自然が豊かなところなど、漠然と移住先を検討している傾向が強い。

このようなことから、単独移住イベントの開催より複数の自治体が連携した移住イベントを開催することで、より多くの集客が見込める効果的なプロモーションを展開できるのではないかとということ、また、移住希望者にとっても一度に複数の自治体の情報を得られるという点でメリットがあるものと捉え、様々な分野で連携している2市2町と合同でイベントを開催するに至った。

2 事業の内容や結果について（個別相談の実績等）

ア 当日のイベントスケジュール

開催日時：令和6年7月27日（日）13時～16時30分

開催場所：移住・交流情報ガーデン1階

12時30分 受付開始

13時 ステージイベント開始

- ・2市2町の紹介
- ・スタンプラリーの紹介
- ・各自治体の紹介

13時30分 個別相談開始

16時30分 イベント終了

【スタンプラリーとは】

相談ブースで1回以上相談すると好きな自治体のノベルティと引き換えできるイベントを実施。

イ 事業内容や結果について（個別相談の実績等）

来場者	16 世帯
名取市 相談世帯	10 世帯
岩沼市 相談世帯	10 世帯
亶理町 相談世帯	5 世帯
山元町 相談世帯	4 世帯

単独で移住イベントを開催するよりも、来場者及び相談件数が多いことから、一定の効果があったと捉えている。

3 現状における課題について

- ア 様々な媒体によるプロモーションに取り組んだものの、来場者の多くはみやぎ移住サポートセンターからの紹介がメインであったことから、効果的なプロモーションについて再検討が必要である。
- イ 各自治体の相談件数にばらつきがあったことから、均等になるような取組を検討する必要がある。
- ウ 相談待ちの方に対する取組を検討する必要がある。

上記は、本市が考える課題であり、岩沼市、亶理町、山元町が考える課題は含まれていない。また、2市2町担当者が一堂に会したフィードバックは、令和6年8月下旬に開催予定であり、2市2町の意見等を踏まえながら、今後の取組について検討することとしている。

②スーパーキッズ育成事業について

1 事業の概要について

全国的な人口減少社会である中、本市の総人口は増加傾向になっている。しかしながら、年少人口及び生産年齢人口は計画値に対してマイナスの乖離が拡大傾向にあり、このまま減少トレンドが続くと、本市の活力が維持できなくなることが懸念されている。将来にわたり、活力を維持して持続的な発展を実現するには、本市が持つ特色を最大限生かしつつ新たな魅力を創出

し、市内外問わず「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」「選ばれるまち」として移住定住人口の増加を促進し、地域活性化へつなげることを目的として、本事業の導入に至った。

具体的な事業概要としては、名取市サイクルスポーツセンターを拠点施設に、スケートボード競技において将来日本を代表するアスリートを目指している小学3年生から4年生までを対象に選考会を開催し「なとりスーパーキッズ」を5名程度認定する。パーソナルトレーニング、月1回のメンタルヘルス相談の提供及び大会や合宿への参加をプログラムの中で提供する。また、交流人口や関係人口の拡大を図ることを目的としたNatori Cupを開催する。

2 事業の進捗、応募の状況について

ア 選考会の状況

参加申込者：3名（いずれも市外在住）

一次選考通過者：3名

二次選考参加者：3名

二次選考合格者：2名（合否判定前に1名辞退）

イ Natori Cup の開催

開催日：令和6年3月31日（日）

場 所：名取市サイクルスポーツセンター

参加者：ビギナークラス：8名

ウィメンズオープンクラス：6名

メンズオープンクラス：12名

来場者：約100名（※参加選手含む）

ウ なとりスーパーキッズ認定者の状況と提供しているプログラム

認定者：1名

・専属コーチにおける育成プログラムの提供

（月1回の現地指導のほか、週1回のオンラインによる指導）

- ・週1回のパーソナルトレーニング
- ・月1回のメンタルヘルス相談
- ・Natori Cup や国内主要大会への出場
- ・関東合宿

3 現状における課題について

- ア プログラム参加者が1名であること。
- イ 施設の都合上、荒天時は使用できないこと。

③各種補助金について

1 補助金の内容、申請状況について

ア 移住支援金

東京23区在住、または東京圏在住で23区に通勤する方が名取市に移住し、一定要件を満たす場合に支給する。

単身移住：60万円

世帯移住：100万円

※18歳未満の子供を養育している場合は、子供1人当たり100万円の加算

※R6.7.31現在の支給状況 7世帯 1,220万円

イ なとりマイホーム応援事業補助金、新婚世帯等マイホーム応援事業補助金

市外からの移住を促進し、名取市で永く生活を送ってもらうため、市が指定する特定エリアに住宅を購入した世帯に対して補助する。

新婚世帯、子育て世帯の場合：25万円

一般世帯の場合：15万円

※R6.7.31現在の支給状況

○なとりマイホーム応援事業補助金 14世帯 210万円

○新婚世帯等マイホーム応援事業補助金 30世帯 750万円

ウ 若者定着奨学金返還支援事業補助金

日本学生支援機構の奨学金を利用し、市内に本店がある法人等に正規雇用され市内で勤務している 30 歳未満の方に奨学金返還を補助する。

最大 18 万円を 3 年間補助

※R6. 7. 31 現在の支給状況 1 件 18 万円

2 今後の課題、展望等について

ア 移住支援金

○申請件数の増加に伴い補助裏の一般財源負担も増加。また、今後国や県においても移住者の増加により財源の不足が見込まれた場合、制度変更などの可能性もあるため、国の動向を注視する必要がある。

イ なとりマイホーム応援事業補助金、新婚世帯等マイホーム応援事業補助金

○申請件数の増加に伴い、相談受付業務を担当する職員の負担が増加している。

○一般財源の負担が増加している（新婚世帯に対する補助金は財源あり）。

ウ 若者定着奨学金返還支援事業補助金

○想定よりも申請件数が少ないことから、制度の周知に努める必要がある。

<質疑応答>

①合同移住フェアについて

（質） 2 市 2 町合同で開催したとのことだが、相談者はあらかじめ特定の町を目的に来るのか、それとも町の紹介を聞いてから個別相談に行くのかなど、来場者の様子はどうか。

(答) 各自治体を狙ってくる来場者も多い印象があった。待ち時間に他の市町の紹介をして、2市2町を知っていただくような誘導などはした。

(質) スタンプラリーの内容は。

(答) 各ブースを回った人に対して、台紙にシールを貼り、回ったブース数に応じてノベルティをプレゼントしている。

(質) 来場者は満遍なく4つのブースを回っているのか。

(答) 4つの自治体のブースを回った方もいるが、時間の都合上特に興味のあるところだけを聞いて帰った方もいて、様々だったと捉えている。

(質) 先月のイベントではあるが、10世帯の中から既に動きがあるなどの状況はあるのか。

(答) 令和7年3月頃の移住を予定している世帯が1世帯と、移住時期は未定だが、本市への移住を考えている世帯が1世帯で、今のところ2世帯いる。

(質) 常任委員会の行政視察に行くと、本市の知名度が低いということをおかしく感じる。移住を促進するのは良いが、その前に本市の知名度を上げる工夫は考えているのか。

(答) 令和4年度に首都圏向けのプロモーション動画を作成している。そのほか、ユーチューブやインスタグラムなどで、本市の知名度が上がるようなプロモーションをしている。

(質) 名取のイメージを出せないものか。本市は海や山があり、地の利は良い。そのあたりを取り上げながら、政策企画課などで企画をしてはどうか。

(答) 首都圏向けには動画などでPRを行っているが、そのほかにも、市民ライターを要請しており、市民が直接取材した原稿をNoteというSNSを使い、住んでいる方自らが魅力を発見し、外に向けて発信するという取組もしている。また、先日、七十七銀行と東京ガールズコレクションを企画・制作するW TOKYOが連携して開催する、非常に集客力のあるイベントに参画させていただいた。仙台国際センターでイベントを行ったが、タレント目当てという方もいて、県外や首都圏からも若い人々が集まった。様々な機会を捉えて、知名度を上げることに地道に取り組むつもりである。

(質) 今回は合同ということで、名取だけでなく他の2市2町と比較する人もいたと思うが、来場者からの声はどうだったか。

(答) 本市にあって山元町にはないものがあり、逆もしかりということもあるので、各ブースを回っていただくことで、いろいろと感じ取っていただけた部分はあるのかと思う。例えば山元町は、土地の平米当たりの値段を仙台市と比較してグラフで示し、安価であることなどをPRしていた。2市2町で違いを出しながら説明ができたという点については、比較する材料にはなっていたと捉えている。

(質) プロモーションについて、今回みやぎ移住サポートセンターから紹介されて訪れた人がメインとのことだが、ユーチューブやSNS、ホームページでは本市はどういう検索に引っかかるようにしているのか。

(答) ハッシュタグのことだと思うが、今回の移住フェアのプロモーションについては、いろいろな方面にアプローチし集客するということに重きを置いていたため、多くのハッシュタグは付けていなかった。今後、検索にヒットするようなプロモーションを2市2町と一緒に考えていきたい。また、今回の合同移住フェアに限らず、金銭面の課題はあるが、プロモーション動画にユーチューブ広告を使ってターゲットを絞ってみるなどして、効率よくターゲットに当たるような方策も検討できればと考えている。

(質) プロモーションということで今回は幅広く取り組んだという認識だが、例えば、丸森町などは移住する人に土地が約700万円のところを約100万円にして売るなどしている。ほかにも、山元町はリモートワークができることをPRしている。ある程度ターゲットを絞ってのプロモーションや、民間等にアプローチすることは難しいか。

(答) 幅広くプロモーションをしても、ピンポイントに来ていただけない可能性もある。このあたりは2市2町の担当者とも相談をしながら、今回の合同移住フェアは、宮城県にゆかりがある方、かつ子育て世帯をターゲットにしてプロモーションをした。ターゲットにもいろいろなカテゴリーがあるので、次回以降ターゲットを意識した周知に努めていく必要はあると捉えている。

(質) みやぎ移住サポートセンターとの連携状況は。

(答) 東京都千代田区有楽町にある東京交通会館の一角にふるさと回帰支援センターがある。移住を検討されている方がみやぎ移住サポートセンターに相談をした際に、本市にも情報をいただいている。また、宮城県に移住希望だが場

所が未定の人に対して本市を紹介してもらうなどして、移住希望者に適切な自治体を御紹介いただいている。みやぎ移住サポートセンターと連携を図りながら移住希望者の増加に努めている。

(質) 企業誘致だと、宮城県の事務所に何度も足を運んだほうが紹介される数の増加につながることが多い。みやぎ移住サポートセンターに職員が足を運ぶとか、情報交換はしているか。

(答) 本市に単独で移住相談する際は、みやぎ移住サポートセンターと同じフロアで開催しているので、そこでも情報交換をするほか、年1回オンラインで現状の相談をして情報共有を図りながら進めている。また、市長が上京した際にみやぎ移住サポートセンターに立ち寄って、相談員や役員の方との懇談も積極的に実施するなどして、トップセールスも行っている。

(質) 2世帯ほどが本市に移住の意向があるとのことだが、なぜ本市を選んだのか。

(答) 1世帯は東北出身の方の世帯で、東京と実家の中間で仙台近郊を検討していく中で本市を選んだ。もう1世帯は本市に縁があって宮城に帰りたいということで移住相談があった世帯である。

②スーパーキッズ育成事業について

(質) 令和6年度から始まった事業だが、約半年ほど経ち、担当課としてどのように現状を評価しているのか。

(答) 初めての取組ということもあり、当初はスーパーキッズとして認定された人が求めていることと本市が提供する内容との間で解釈の違いがあった。そういう点について、本市だけでなく、プログラムを実際に運営しているムラサキスポーツ、セントラルスポーツの事務局とも改めて認定者に説明等を尽くしており、少しずつ軌道に乗ってきていると捉えている。

(質) 本事業は、移住定住や本市のシティーセールスが大きなポイントだと思うが、認定された方は家族みんなで移住しているのか。以前、家族が離れ離れになったらどうするのかという質疑に対して、それは家族の都合だという話だった。移住定住となると、ずっと住み続けてもらいたいわけで、今回のケースだと、移住定住という目的に合った効果や最終的なゴールラインが見通せるの

か、危惧されるようなことはあるのかを伺いたい。

(答) 家族での移住という見方についてはプライベートなところもあるが、現状、保護者としては母親とお子さんが移住している。居住形態についても賃貸物件に住んでいるので、最終的な移住という形態で見たときに、確実な移住という状況かということ、必ずしもそういう評価までは至らないとは感じている。この事業については、スーパーキッズとして認定するお子さん、保護者の移住ももちろんだが、お子さんの活躍を見て本市を選択していただくということも、移住という点では事業の目的としている。そういう意味では、事業そのもののPRや、活躍の様子ということも今後発信をしながら、PRに努めることが必要と考えている。

(質) プログラムの参加者が現在1名であるが、スケートボード場を使うとき、ほかの人との練習機会はあるのか。

(答) 一般の人でも利用できる施設であるため、練習中に来た人と競合しながら施設を利用することなどはあると伺っている。

(質) 令和6年度において、関東合宿は誰と行うのか。また、Natori Cupの規模はどの程度か。

(答) Natori Cupは令和5年度と同程度の規模で行う予定である。関東合宿は関東にあるパークに遠征で行き、専属コーチが終日コーチングをしながら練習するという合宿を先日行った。

(質) 関東合宿はお子さん1人で行ったのか。

(答) 遠征については、お子さんが小学4年生なので、保護者の方が1名同伴という形で対応していただいた。

(質) 合同で他チームとの合宿ではないということか。

(答) 他のチームと一緒にというわけではなく、別のパークで練習するというのもスキルアップに必要な経験だということで、スーパーキッズとして合宿に参加した。

(質) 先日パリオリンピックが終わった。スケートボードの競技を見てみると、閑上からアスリートが出たらすごいと思ったが、あれを見た瞬間無理だろうと思った。「アスリートを目指している」と書かれているが、そんなに簡単にはいかない。「スケートボードに親しむ」など、もう少し表現を柔らかくして受けさ

せて、アスリートになれる希望があるというようなものは、どこかに行ってやれるという、幅をもった施設にならないのか。補助金をもらうためにはある程度の規定をかけないと駄目なのか。

(答) 事業の中身としてアスリートを目指す小学生を育成するというプログラムのほかに、Natori Cup の開催は、競技人口の裾野を広げるというところもある。委員御指摘のように、緩やかに親しんで、そこから上を目指していくようなことについては、直接育成につなげるためには認定が必要であり、直接的な機会をどう作るかという課題はあるが、競技人口を増やすという意味では、Natori Cup で補えている面もあるのではと考えている。

(質) 将来、海外合宿などもあるかもしれない。市として保護者とお子さんの分も補助するのか。

(答) 保護者同伴についてはあくまで子供が小学6年生までとしている。中学生からは同伴は基本的には認めないと整理している。

(質) 補助金を出すということか。

(答) 委託経費の中で、遠征に係る経費として見込んでいる。

(質) 月1回の現地指導、週1回のオンライン指導、パーソナルトレーニング、メンタルヘルス相談などを受けることと書かれているが、それ以外の時は、お子さんは1人でどのように練習をするのか。

(答) 学校終了後、サイクルスポーツセンターに行き、コーチから与えられたミッションを繰り返し練習している。

(質) 仙台市の民間の施設で行われているものは、皆で切磋琢磨して練習できる環境がある。この事業でのお子さんは学校も転校して、家族とも別れるという決断をして、すごい思いで来ているが、1人で練習しているのでとても大変であるし、可哀想にも思う。これに対する解決策、支援はあるのか。

(答) 課題としても、1人という状態についてはお子さんによって良し悪しはあると思うが、必ずしも良くない面はあるのではないかと捉えている。追加募集については、現時点において協議中である。一つの解決策としては、追加で募集をして複数人になるようにということも視野に入れてはいるが、実施するかどうかは協議中である。

(質) 市は、専属コーチや業者と意見交換や連絡、連携というものは定期的に

しているのか。

(答) オンラインミーティングを定期的にしており、当日の練習状況や気になる点があれば、関わっているところからメール、電話などで事務局として連絡を取りながら意思疎通している。

(質) 市は、本人や保護者とも連絡をとっているのか。

(答) 1番の窓口になるのは、毎日練習をしているので、いろいろな御意見などはサイクルスポーツセンターの担当者に連絡がいくほか、直接コーチにメールなどで相談をしている。その内容は市でも必ず共有されるようになっており、どういう状況なのか逐一捉えながら、一緒に取り組んでいる。

(質) 先ほど「事業が軌道に乗ってきた」と言っていたが、それまでは軌道に乗っていなかったということか。スタートの時点でオリンピックを目指すというものすごい覚悟で本市に移住して来ている。当然、本市としてはオリンピック出場選手を育成すると言っているのもので、そのために全力を尽くしてくれているものだという認識の下に多額の費用をかけて来ている。それが最初は軌道に乗るまでは様子を見て、模索しながら、ということは、保護者やお子さんに対して失礼ではないかと思う。オリンピックに出場することを目的に来ているわけなので、本市としてどこまで本気になってオリンピック出場のために支援していくのか。また、金銭面もかかってくる。例えば、ここで課題として挙げられているが、屋外の練習場しかない。雨、風、猛暑のときもあるので、屋内で練習したいこともある。そのような場合の移動費や使用料など、全部本市が負担するのか。そういうことも含め、今どういう形で金銭的な補助をしているのか。

(答) 金銭的負担について、荒天が続いて施設が使えなくなると、技術向上に悪影響を及ぼす可能性もある。その場合、全天候型の施設を利用する際はその分の金銭負担をすることもやむを得ないとしており、プログラムの委託費の中で負担する。資金面での支援における1つの線引きとしては、生活費に係る部分の負担はしないこととしている。あくまでプログラムに係る経費の負担は可能と考えており、認定者にもお伝えしている。

(質) どこまでが生活費でどこからが競技のための育成費用かは考え方次第だと思う。全天候型施設の利用などの移動費も負担するということだが、オリン

ピックに出るためにはそれだけではない。様々な大会に出場していろいろな会場へ行くなど、遠征するための交通費もある。それから、スケートボードというものは、1日だけ行って競技して帰ってくるというわけにはいかない。会場の特色を自分でつかんだ上でベストなコンディションで競技に臨まなくてはならない。競技が行われる何日も前から行って、競技場の施設の形状などをきちんと身に着けなくてはならない。1日だけで済むものではない。泊まり込みなどの費用もかかってくる。そして、オリンピックに出るためには、道具にもお金がかかると思うが、それに対する補助は。

(答) 委員御指摘の内容の費用については、ほぼ全て遠征費として必要なものということで、交通費や大会参加費等を経費として含んでいる。そのほか、コーチと調整のうえ、当日を迎える前段で競技場に慣れるための練習についても遠征費として、プログラムの経費として負担するという整理をしている。こういう場合の経費負担はどうするのかなどを事務局、認定者にもQ&A方式でお示しして、会議等でお伝えしている。また、現在スケートボードの購入は自己負担としているが、ルールなどのスキルアップのための練習器具についての購入は、内容によって対応していくものもあると考え、整理をしているところである。

(質) 月1回の直接指導は少ない印象がある。亘理町の鳥の海の会場では、周辺にオリンピックの実績がある方が実際に住んでいて、そういう方が子供のスキルを上げるための講習会を行っていると同ったこともある。オリンピックに出るためであれば、そういう補助も必要ではないかと思うが、どういう整理をしているのか。

(答) 関係機関と相談しており、月1回の指導で技術向上が図られるという整理をしている。

(質) それ以上は負担しないということか。

(答) 予算の中で行うとなったとき、提供できるプログラムにも限りがあるので、全てに対応できないところもある。委託業者とも契約上ここまでという範囲の中で行っている。

(質) この事業で問題だと思うところは、最初の時点で、認定キッズ・保護者と本市・委託業者との間で、どこまでは支援する、支援しないとお互いが了解

した上での契約書みたいなものが調べている範囲で出てこないところである。最初の時点で契約書を交わすのが普通だと思うが、この事業においてそういうものはあるのか。情報開示請求をしたがでてこなかった。

(答) スタートの段階で、費用負担の細かい整理はなかった。そこで、保護者と本市との間で多少認識のずれがあった。最初にうたっていたものは、生活に関する経費については基本的には負担しないとしており、練習や遠征に係る経費についてはこのプログラムで提供する、という大きな枠だった。しかし、それだと実際にプログラムを受ける側としては疑問に思うところもあったということで、もともと想定していたものを明文化して、相手にお伝えして整理をした。

(質) 令和6年4月から始まって約5か月経ったが、市として直接、もしくは株式会社ムラサキスポーツ、セントラルスポーツ株式会社経由などで、このプログラムに対する小学4年生のお子さんからの感想は何か聞いているか。

(答) 感想は伺っていないが、定期的にサイクルスポーツセンターでの練習状況などを市の担当で見に行くことはある。直接の声がけはしていないが、状況については確認をしている。

(質) パークに関しては、関東合宿などで補っているということだが、パークの施設がないことについてはどうか。

(答) パークによって、内容、形状が異なるものが関東にはある。同じ所だけではなく、いろいろな技を磨く上では、関東にある違う形状のパークに行って、そこでできる練習をしていただくということを狙いとして、今回合宿にも参加していただいた。いろいろと経験することが大事だと考えている。

(質) 認定キッズが1人というのは、事業としてどうなのだろうと想着てしまう。シミュレーションでは2年に1回の選考となっているが、選考会を前倒しする予定はあるか。

(答) はっきりと決めてはいないが、そういう対応もあると認識している。

③各種補助金について

(質) 移住支援金について7世帯に支給しているとのことだが、移住先の地区

はどこか。

(答) 増田地区が1世帯、増田西地区が2世帯、館腰地区が2世帯、杜せきのした地区が1世帯、美田園地区が1世帯である。

(質) 本市は2町4か村が合併して昭和33年に市制施行したが、その方々に対しての補助や支援はこれまで考えたことはあるか。

(答) なとりの魅力創生課のミッションとしては、移住定住ということで、委員が仰っているのは定住している方向けの支援は何もないのかということだと思う。市の活力を維持するためには、これまでの本市の人口増の経過からしても、他の地区からの移住より社会増というところで人口を増やしてきた経過がある。そのことによって、若年層が他の町に比べると相当多く、活力あるまちを作ってきていると思っている。今はその延長線上として、どちらかというところ移住に向けた取組が中心になっている。第六次長期総合計画策定の際、地区懇談会で様々な地区を回った際、市街化区域がない地区については、住宅を取得することがそもそも難しいので、外からの移住が見込めないという話もいただいた。高館地区については、熊野堂の土地区画整理なども予定されており、面的な開発によって人口を増やしてくところはあると思う。それから、地区別の住宅取得の補助金の創設については、市内全域ではなく、住宅の取得が進んでいないような地域を対象にしており、従来からなかなか人口が増えないという御意見も踏まえて設定をしているところである。ずっと住んでいる方への住宅取得等の直接的な補助となると、全ての世帯が対象になってしまい、現実的には難しいところがあると思う。旧来から人口が増えない地区の御意見について、そういった形で間接的にはなるかもしれないが、対応について考えていきたい。

(質) 若者定着奨学金返還支援事業補助金の申請件数が少ないことについて、この奨学金の補助金については誰も調べないのではないかと思う。どのように周知をしているのか。

(答) 広報なとり、ホームページのほか、市内に本店がある法人等対象となる企業へ向けたチラシの配付をしている。

○委員長（菊地 忍） 再開いたします。

以上で本日の付議事件は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れ様でした。

午前11時18分 散 会

令和6年8月23日

総務消防常任委員会

委員長 菊地 忍